

CO₂ 燻蒸 + 天敵によるイチゴの農薬削減

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

イチゴ栽培においてハダニは葉に食害等を引き起こす害虫として知られており、栽培においてハダニの防除は欠かせないものとなっています。近年、ハダニの化学農薬に対する薬剤抵抗性が発達しており、蜜蜂導入後の収穫中には確実な防除ができる農薬がほとんど無い状況です。そこで、ハダニに苦慮する 1,000 m²以上の農家 5 戸に対して、抵抗性が生じない天敵利用や CO₂ 燻蒸で化学農薬を削減する対策の実践を平成 30 年度から令和元年度の 2 年間にわたり支援しました。



写真1 CO₂ 燻蒸準備

【普及活動の内容】

平成 30 年度は、研修会・個別巡回により、天敵（ミヤコカブリダニ）+ 天敵に影響の少ない化学農薬による防除体系の実践をすすめ、天敵の導入を図りました。また、定植前に高濃度 CO₂ により苗燻蒸を 2 戸で展示実証しました。

令和元年度は、天敵の利用技術を向上するため、個別巡回により、ハダニの発生密度に応じた防除対策の実践をすすめ、研修会で紹介しました。



写真2 天敵パック

【普及活動の成果】

平成 30 年度の取組で、対象とした農家 5 戸のうち、3 戸は栽培に影響の無い低密度に抑制することができましたが、2 戸は、育苗時の発生が抑えきれず、防除回数が多くなりました。

令和元年度は、育苗・本ぼの両方で天敵パックや保湿剤を加えた新型天敵の活用により、全戸で抑制することができました。

この 3 年間における 5 戸のハダニの化学農薬防除回数は、育苗中では取組前の平成 29 年度に比べ 37→30→24 と 2/3 に削減でき、本ぼの年内防除では 43→23→11 回と 1/4 に削減できました。天敵は高価ですが、防除回数が削減でき、防除資材費はほぼ同等となりました。さらに防除労力が 4 割と大幅な削減ができ、大規模農家の施設でも今年は十分手が入れられ、ハダニの発生が抑制されています。

今後、小規模で導入の難しかった農家にも天敵発注単位を組み合わせることで利用促進を図っていきます。

◎対象者の意見

2 年前は、ハダニに化学農薬が効かず困りましたが、今年は天敵をうまく利用でき、定植後も化学農薬をほとんど必要とせず、助かりました（生産者 N 氏）。